２０２４年度学生による前期授業評価アンケートへの

教員からのコメント

■基礎演習Ⅰ(稚内本校)/伊藤良平、小林伸行、佐藤結花、松坂公暉

受講者 11 名に対して回答が 8 件と、回答率は 72.7%になっており、アンケート実施日に欠席した学生の意見等を、必ずしも十分反映できなかったことが伺える結果となりました。ただし、当日出席者 9 名のうち 1 名は、授業中の回答を保留し後日回答するとしていた留学生のため、実質的には「出席者全員が回答する」ことを実現したことになり、実施方法自体に問題はなかったと考えられます。

授業の難易度を尋ねた設問６で 12.5%が「とても難しかった」、75%が「難しかった」と回答していることから、例年以上に高度な内容と感じる学生の割合が多かったか、実際に学生にとって高度な内容の授業を進めてしまっていた可能性が高いと示唆されます。また、授業全体をよく理解できたか尋ねた設問 14 では、2023 年度後期には「そう思わない」が 0%で、14.3%が「強くそう思う」と回答したのに対して、今回は 12.5%（1 名）が「そう思わない」と回答し「強くそう思う」が 0%となっており、26.7%が「そう思わない」と回答し「強くそう思う」が 0%だった 2023 年度前期と類似した傾向の結果となりました。 したがって、学生の理解や納得が得られやすい教材を豊富に作成・使用するように準備の段階から留意したり、課題の手順や例示をより具体的に行ったりするといった、2023 年度前期の反省・対策として 2023 年度後期から継続していた対応も、2024 年度前期には効果が限定的なものに止まったことになります。よって、指導・対応の方法とは関係なく、例年前期に扱っている内容自体に、本学の 1 年次学生には高度に感じられる要素がある可能性が示唆されたとも考えられます。それゆえ（修得必須の学習内容ばかりでさらなる絞り込みは難しいものの）、扱う内容の順序や組み合わせを工夫するなど、別の観点からの対策が必要であることが示唆されました。

「5. この授業に意欲的に取り組みましたか」に対して「意欲的とはいえない」、また「15. 授業の内容に興味を持ち、より深く学びたいと思いましたか」に対して「全くそう思わない」という回答がそれぞれ 12.5%（1 件）だった点も踏まえると、課題内容とのミスマッチが学習意欲を奪う結果にまでつながっている虞もあり、対策をより多角的・慎重に進めていく必要があると考えられます。

主な具体的課題としては、設問 17 の「難しいと思った課題の内容」（複数回

答）に対して、回答 2「ディスカッション（中の自分の意見の主張や質疑応答など)」と回答 3「課題内容（に関する教員の指示・補足説明）の理解」の２つが 50%（4 件)となった点が挙げられます。

後者については、教員側の準備や対応に問題がある可能性も残りますが、仮に両者が関連しているとすると、他者の発言・説明の内容を（特に対面状況・リアルタイムで）理解したり活用したりすること自体が苦手な可能性が共通点として示唆されたと言えるでしょう。高校時代のコロナ禍（や不登校、通信制の環境など）の影響から、対面状況でのグループワークや発表経験自体が少なく、もともと苦手意識の強い学生が、昨年度に引き続き多かったことも、この点の傍証として挙げられると考えられます。

なお、今年度から、提出物の〆切を原則として二段階（以上）に設定することとし、早期提出者には加点する形を取ることにした結果、昨年度には多数見受けられた「〆切が早すぎた」という類の回答はなくなったことが確認できました。